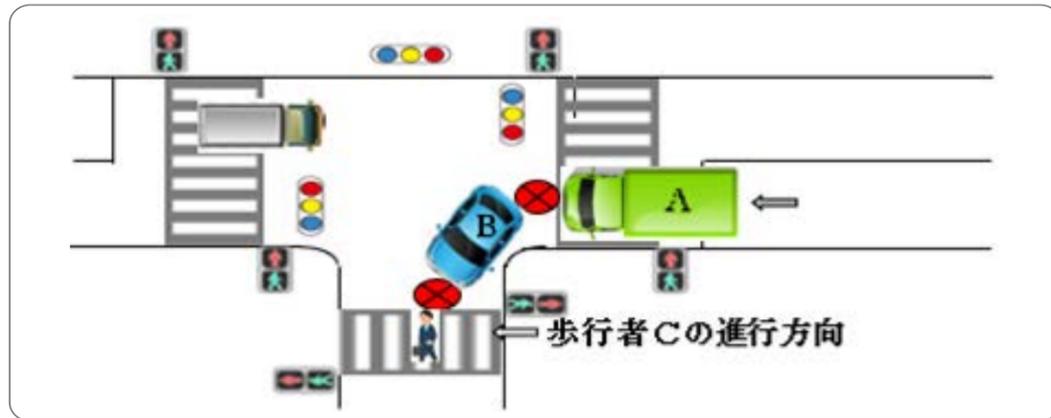


職場における交通安全指導

Part 139

左折のため停車した前車に追突し、前車がその反動で歩行者に衝突



事故の概要

- 事故の当事者
 - 当事者A (中型貨物車) : 50歳代、男性
 - 当事者B (普通乗用車) : 30歳代、女性
 - 当事者C (横断歩行者) : 40歳代、男性
- 被害状況
 - A : 車両前部中破
 - B : 軽傷(頸椎捻挫)
車両左後部中破
 - C : 重傷(頭部挫傷等)
- 道路状況
 - 県道片側一車線の丁字路交差点

事故状況

運転者Aは、運送会社に勤務して25年になる中型貨物車の乗務経験が豊富なベテランドライバーである。事故当日は、食品、雑貨等を県内のスーパーマーケットなどに配送する途中で、数か所の納品を終え、次の店舗に向かうため片側一車線の県道を走行していた。Aは交差点を青信号に従い直進しようと、前車Bに追従して走行していた。Bは合図を出し交差点を左折しようとしていたが、横断歩行者を認めて停車した。Aは、Bが停車したことに気付くのが遅れ急ブレーキを掛けたが間に合わずBに追突。Bは、その反動で横断歩行者Cに衝突して転倒させ重傷を負わせた。

事故の原因

交差点を通行する際は、交差点内と周囲の安全を十分に確認する必要があります。Aは、前日、家庭内のトラブルをめぐり、妻と口論をしていたため、そのことを考えながら漫然と運転していたことで、停車した前車に気付くのが遅れてしまったのが事故の原因です。

安全指導

悩み事などがある時や長時間運転を継続していると、次第に運転以外のことを考えたりすることがあります。顔は前方を見ているのに頭がボーッとし、注意力がなく意識が散漫としている状態のため、ほかの車両や歩行者の存在に気付かないことがあります。この状態を「漫然運転」と呼びます。

●漫然運転の原因と防止策

1 考え事をしながらの運転に注意
考え事をしながら運転していると前方の状況が目に入らず、顔は前を向いていても実際は見えていないという状態になりがちで、赤信号を見落としたり、停止した車両や横断歩行者の発見が遅れるなどの危険な状態に陥りやすくなります。運転中は、運転以外のことに気を取られることなく、運転に集中しましょう。

2 慣れと油断に注意

初めて運転免許を取得した時は、緊張しながら運転しますが、慣れてくるにつれて緊張が緩み、特に乗務経験の長いベテランドライバーは、いつも通り慣れた道路や、構内では、油断が生じやすくなります。運転に慣れるほど「あそこは大丈夫。」「この路地からは何も出てこないはず。」という「だろ運転」になりがちです。危険を予測できる「もしかしたら車の陰から人が飛び出してくるかも」「交差点で前車が急停止するかも」というように「かもしれない運転」を心掛けましょう。

3 「ぼんやり」運転に注意

絶えず周囲の状況に目を配り、他車や歩行者の動きを予測し、瞬時的確な判断や操作が要求される運転時には、ぼんやりした状態で走行するのは非常に危険です。「ぼんやり」を招く要因の一つとして、睡眠不足や疲労などが考えられます。運転中に少しでも眠気や疲れを感じたら車両を安全な場所に駐車して休憩をとりましょう。可能であれば仮眠をとり、仮眠直後には、車外に出て、軽く体を動かしたり、洗顔したりして、頭も体も眠気を覚ましてから、運転を再開しましょう。

4 単調な道路、長時間運転に注意

走行車両が少ない高速道路や海岸線のように延々と真つすぐな道が続くなど、単調な道路を長時間運転していると、ハンドル操作が少なく、運転中の確認事項も多くないことから緊張感が薄れ、頭が「ぼんやり」とし、そのまま運転していても、前方は安全だと思込みやすくなります。運転の途中に休憩を取ったり、ガム等を噛んで脳を活性化するなど、気分転換することにより、運転のリズムも変わってきますので効果的です。

今回のケースは、「漫然運転」が原因となった事故でした。運転中は、油断せず、前方に対する警戒心を高め、危険意識を保つことが大切です。常に前車が止まるかもしれないという「かもしれない運転」の心構えと、確実な安全確認の方法として、運転中には「左折前車・注意！」と自ら声を出して確認する「コメントリー運転」を実践し、交通事故の根絶に努めましょう。

●2024年度上半期交差点事故の発生状況

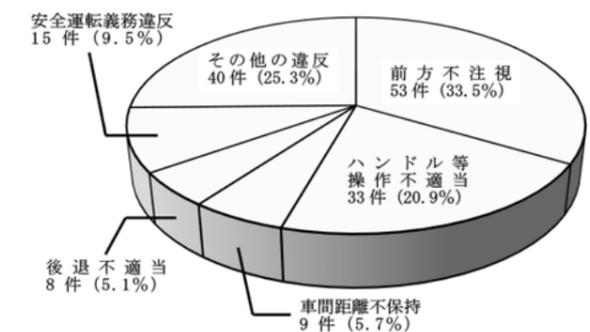
区分	対人 (総件数 158 件)				対物 (総件数 815 件)			
	件数	発生割合	前年度比	増減率	件数	発生割合	前年度比	増減率
交通弱者	27	17.1%	-6	-18.2%	15	1.8%	0	-
車両相互	31	19.6%	-13	-29.5%	111	13.6%	-19	-14.6%
車両単独	0	-	0	-	28	3.4%	-5	-15.2%
合計	58	36.7%	-19	-24.7%	154	18.9%	-24	-13.5%

●2024年度上半期追突事故の発生状況

区分	対人		対物			
	件数	前年度比	件数	前年度比		
追突	64	増減数	86	増減数		
		増減率		増減率		
合計	64	-16	-20.0%	86	-22	-20.4%

●原因別交通事故発生状況

対人事故



対物事故

